



羽村市立小作台小学校

令和6年度 学校経営方針

地域の風が通る・学ぶ意欲あふれる楽しい学校

～自分の考えをもち、豊かに表現できる子～

教 育 目 標

<羽村第一中学校区 小中一貫教育>

よく考え進んで学ぶ 認め助け合い広く思いやる 自ら鍛え丈夫な体を作る

<小作台小学校>

よく考える子 思いやりのある子 げんきな子



「どの子どももみんな自分の子 共に育てよう小作の子」を子育て理念とし、地域と連携しながら、質の高い授業を行い、「当たり前前の方が当たり前前ができる子供」「ふるさとを愛し、豊かな心とたくましく生きる力をもつ子供」を育てます。

1 はじめに

昭和52年4月（1977年4月）に市内6番目の小学校として開校した小作台小学校は、今年で48年目となります。この間、本校は「進取の気性」を体現する新しい時代に必要な教育に挑戦してきました。「羽村で唯一の臨海学校実施」「すすき原を開墾した学校農園」「日本の伝統・文化理解教育の研究指定」「地域のふるさと祭りへの参加」など数多くの取組が挙げられます。（現在も継続している取組は少なくなりましたが、令和3年度に行った、SDGsの視点に立った学習活動の研究発表を基に、学校農園を活用した教育活動は現在も活発に行われています。）

私たち小作台小学校の教職員は、これらの素晴らしい伝統を引き継ぎながら、新しい令和の教育課題の解決に取り組む必要があります。子供たちが学ぶことの意味は、将来につながる可能性を広げ、視野を広げ、豊かな人生を送れるようにしていくことです。私たちは、子供たちの「夢の土台」をしっかりとつくることに対し責任をもって取り組まなければなりません。

昨年度は、新たな3学期制の実施と共に、アフターコロナの学校づくりに取り組みました。新しい形での行事を実施し、算数に教科を絞った校内研究を核に、各教科における「児童の学力向上」に取り組みました。今年度は、昨年度1年間の授業実践の検証結果を基に、3学期制の特徴を更に生かしながら、毎日の授業の充実を継続・発展させていくことが課題となります。今年度から始まるコミュニティ・スクールの取組を学校運営に取り込みながら新しい令和の学校づくりをさらに前進させていくことも課題です。

羽村一中校区での小中一貫教育の取組を活かした日々の授業改善、はばたき教室（特別支援教室）を核とした特別支援教育の推進等すべての子供たちが安心して学ぶことのできる環境づくりをすすめ、教育の本質をしっかりと見つめ「地域の風が通る・学ぶ意欲あふれる楽しい学校」の実現のために全教職員が一つになり、子供の健康・安全を第一に考えて教育活動に取り組んでいきましょう。

2 小作台小学校職員としての基本姿勢

～質の高い教育を提供し、信頼される小作台小学校の教育をつくるために～

1 手本を示して生き方の指針を示す。

- (1) 教育公務員としての自覚をもち、服務規律の遵守に努め、市民・社会人としてのモラルやマナーを備える。
- (2) 自身の言動が子供の範となり、本校での経験が学校に対するイメージとなることを自覚し、服装・言葉遣い・言動・環境整備に留意する。

2 子供を原点に、子供が安心できる環境づくりをする。

- (1) 子供一人一人が輝く活動を工夫する。
- (2) 「いじめ、いじわる、いやがらせ」に対しては、全教職員が毅然とした態度で対応する。
(複数指導・事実確認指導記録を残す。⇒いじめ対策委員会)
- (3) 「分かる授業」「楽しい授業」「学びがいのある授業」づくりに努める。

3 教師のプライドとしての指導力、授業実践力を鍛える。

- (1) 日常の授業、日々の職務を通して学ぶ姿勢を大切にする。
- (2) 授業研究を通して、良い授業のイメージの共有化を図る。
- (3) 校外で行われる諸研究会、連絡協議会、研修会等に積極的に参加し、その成果や情報は伝達研修・ちょこっと研修を活用して教職員全体で共有する。

4 地域、保護者の期待に応え、信頼される教職員、学校をめざす。

- (1) スピーディーな対応、誠実な対応に心掛ける。特に初期対応には細心の注意を払う。危機管理の「さしすせそ」を念頭に。
- (2) 学校公開や学校行事における教育活動の公開、掲示物等の工夫、諸たよりの発行、HPの活用等学校の方針、子供たちの成長を積極的に発信する。
- (3) 学校評価、保護者からの申し出等は真摯に受け止め、「言ってよかった」「また相談しよう」と感じてもらえる関係をつくる。
- (4) 法令等を根拠に物事を判断し、あいまいな判断、独りよがりの判断はしない。
- (5) コスト意識をもち、限られた材料で最大の成果を生む工夫をする。

5 組織的、計画的な教育活動を進め、学校の教育力を高める。

- (1) 教育計画、指導計画に従い、意図的・計画的な指導を行い、週ごとの指導計画や諸会議による進行管理を行う。
- (2) 課題を抱え込まず、難しい課題には複数で対応する。また、管理職への報告・連絡・相談は確実に行う。
- (3) 保護者、地域、行政、関係機関、企業等、小作台小を支える支援者・応援者を増やし、教育課程の中で活用することで教育力を高める。(地域学校協働本部の活用)

6 自らの健康管理、自己改革に努める。

- (1) 心身の健康は充実した教育活動の基盤である。めりはりのある仕事、規則正しい生活に心掛ける。
- (2) 暖かい言葉、温かい視線、さりげない心遣いなど、居心地のいい環境を共有する。
- (3) 人間性や社会性、常識と教養、礼儀作法など自己啓発に努める。

3 学校経営の具体的取組

1 小中一貫教育を柱とした質の高い教育の実現

小中一貫教育は、義務教育9年間の継続した指導を行うこと、義務教育期間に身に付けなければならない力を明確にし、一年一年の指導の積み重ねをしっかりと行うことにより、より確実に「生きる力」を身に付けられるようにする取組です。昨年度から始まった小学校の新たな3学期制は、指導要領と連携した適切な評価を行い、児童の学習意欲を高めることが主たるねらいとなりますが、小学校・中学校共に3学期制に基づく教育活動を推進していくことに繋がり、今年度はその取組の更なる充実発展が求められます。

小作台小学校では、多様なゲストティーチャーによる「地域の高齢者との交流」、「全盲者からの講話や手話体験」、「英語教育」、「学校農園を活用した栽培活動」などに代表される知的好奇心を刺激し、豊かな体験ができる授業が行われています。小中一貫教育においては、乗り入れ授業や体験授業、中学校生徒会と6年生との交流会など様々な取組が行われています。ゲストティーチャーや小中の連携等を日々の実践に上手に取り入れながら子供たちの学習意欲を高めていくことが重要です。

さらに、意図的・計画的に授業を行うために、全学級が次週の学習予定を載せた学級通信を発行し、質の高い教育実現の第一歩とします。英語および特別の教科道徳、プログラミング教育に加え、4年目に入るGIGAスクール構想・児童一人1台のタブレット型パソコンを活用した実践をさらに充実・発展させていく必要があります。

(1) 「小中一貫教育」「3学期制」を活用した教育活動を実践し、系統的な指導の積み上げと丁寧な評価を行う。

- ① 英語を中心とした乗り入れ授業、部活動体験入部の実施、6年生の中学校合同訪問等の「小中交流活動」を継続する。
- ② 「羽村学（郷土学習）」を推進するために、指導計画を整備し、各学年の取組が継続した指導となるようにする。
- ③ 「人間学（キャリア教育）」を推進するために、指導計画を整備し、各学年の取組が継続した指導となるようにする。
- ④ 一貫した学習指導となるように、系統性と積み重ねを意識した計画的な指導を行い、標準学力検査CDTの結果等をもとにした学力の定着を確実に行う。
- ⑤ 一貫した生活指導となるように、挨拶、返事、時間厳守、廊下歩行、持ち物準備等、継続と積み重ねを意識した指導を行い、生活習慣の確実な定着を図る。
- ⑥ 教科や単元を限定した指導形態の工夫（交換授業教科担任制 理科・社会）を高学年において実施する。
- ⑦ 3学期制を生かし、適切な評価ができるように指導と評価が一体化した授業を実施する。また、1学期の個人面談の実施と補助資料作成を適切に行う。

(2) 確かな学力を身に付けさせる質の高い授業づくりのために、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組み、考える力の育成を重視する。読解力の育成に重点を置き、全ての学習活動を通して取り組んでいく。また、客観的な資料をもとに成果検証を行う。

- ① 「分かる、楽しい、学びがいのある授業」をつくるため、指導事項の明示、学び合う場面・考えをまとめて伝える場面の設定を重視した授業を行う。
- ② 校内研の研究主題を「自分の考えをもち、友達の考えの良さに気付くことのできる児童の育成～算数科における指導の工夫～」とし、算数に教科を絞り研究に取り組み、児童の学力向上を図る。
- ③ 指導の指標として活用するため、標準テスト（CDT）を実施する。
- ④ 個に応じた指導を行うために、習熟度に応じた算数科の指導を実施する。
学習内容の定着を図るため、「計算タイム」を実施する。
- ⑤ 朝の10分間読書を、火・水・金の週3回実施し、本好きの子を育成し、読解力育成の基とする。

(3) 多様で豊かな体験と学びができる機会を設定し、児童の知的好奇心を刺激し視野を広げる特色ある教育活動（体験から学ぶプロジェクト等）を行う。

- ① 多様なゲストティーチャーによる人間学（キャリア教育）「プロから学ぶ」を実施し、将来の職業に対して夢と希望を与える機会とする。
- ② ALT、英語コーディネーターを活用し、小学校1年から英語教育を行い、コミュニケーション能力を育てる。
- ③ 地域の高齢者との交流や全盲者との交流を通し、高齢者や障害のある方々への理解を深めさせ、福祉問題に注目させる。
- ④ 田んぼ体験（5年生）に参加し、地域の人々の関わりをもたせる。
- ⑤ 小作台小金管バンド部・音楽集会等を活用し、「音楽のある学校づくり」を推進する。

(4) 恵まれた教育環境を生かし、環境教育、安全教育、読書教育、体育・健康教育、の4つの取組を重点的に行う。

- ① 環境保全や持続可能な社会の実現への土台づくりをするため、CO₂削減アクション月間、ごみ削減、花いっぱい運動を活用した学習を計画的に実施する。
- ② SDGsの一環として安全教育を充実させる。
- ③ 本に親しむ環境づくりと読書習慣を身に付けさせる取組を実施する。
(朝読書、読み聞かせ活動の推進)
- ④ 体育的行事を生かした運動の日常化を図る。
- ⑥ 市栄養教諭を活用し、食に関する指導の充実を図る。

(5) SDGsの一環として人権教育と道徳教育を基盤とした「心を育てる」教育を推進する。
「ことば」を切り口に自尊感情を高め、いじめは絶対に許さない。

- ① 認め合い・助け合いのある温かく規律ある学校づくりをするために、「言葉の使い方」を重点とした指導に取り組む。
- ② 生命尊重の視点に立ち、あらゆる機会(学級・学年・全校各集会等)にいじめ防止や自殺防止に努めていく。
- ③ 人権教育を推進するために、人権課題をテーマにした授業を実施する。
- ④ 人権に配慮した教育環境づくりをするために、児童会を中心としたあいさつ運動、標語づくり等の取組を行う。
- ⑤ 道徳推進教師を中心とし、計画的な道徳の授業を実施する。
- ⑥ 地域・保護者と共に子供たちを育てるために道徳授業地区公開講座を実施する。

2 多様なニーズに対応した教育の推進

特別支援教育を核とした個に応じた教育の実施

小作台小学校には平成29年度から「はばたき教室(特別支援教室)」が設置されています。この強みを生かし、多様なニーズに対応した教育を進めていきます。

これからの義務教育は、今まで以上に一人一人の学びたい、分かりたい、できるようになりたいという意欲を生かす授業をつくっていかねばなりません。その際、核となるのは特別支援教育の視点です。いわゆるユニバーサルデザインの考え方をもとに障害がある、ないにかかわらず学びやすい環境づくりや指導の工夫をしていくために、学びやすい環境づくりを進め、研修に努めることが必要です。特別支援教室専門員を活用し、各学級に在籍する知的障害のない発達障害のある児童(または似た傾向のある児童)への指導を充実させていきます。

そのための体制として、特別支援教育部会を推進の核としていきます。

多様なニーズに応じるためには、児童が安心して過ごせ、心が開放されることもまた必要です。児童とのかかわりを大切にした学級づくりをもとに、いじめ対策委員会を中心に全校体制でいじめ防止や問題行動などに対応したきめ細かな指導を進めていきます。

(1) 学校全体で特別支援教育を推進するために、特別支援教育体制を整備し、個に応じた指導を充実させる。

- ① 障害等に応じたきめ細やかな指導が行えるよう、個別指導計画を作成する。
- ② 特別支援教育に関する資質の向上を図るため、全教員が講演会や研修会に参加する。

(2) 児童が安心して過ごせる学校とするため、児童とのかかわりを大切にした学級、専科経営を行うとともに、きめ細やかな組織対応ができるよう、いじめ防止や教育相談体制の充実を図る。

- ① 「いじめ、いじわる、いやがらせ」を許さない学校づくりのために、毎月アンケート調査を行い、必要な指導を行うとともに市教委へ状況報告を行う。
- ② 落ち着いた環境づくりをしていくために、整理・整頓、校舎内外の清掃、更新され人権に配慮された掲示を徹底する。
- ③ 教育委員会と協力し、日本語指導加配教員を中心に日本語適応指導の充実を図る。
- ④ 児童とのかかわりを大切にし、よりよい学級経営ができるように、毎日中休みは「アクティブタイム」とし、外遊びを励行する。
- ⑤ きめ細かい対応ができるように、専科教員を副担任とし、学年会等を定期的実施する。

3 教育環境の整備と充実

質の高い教育を行うためには、学校力を高める必要があります。学校力を高めるには、教育内容の公開と評価の実施、教員の資質向上を図るための研修の充実、学校外の教育資源の活用が必要です。

特に、地域の教育力を学校教育に生かすこと、OJTを中心とした校内研究体制の充実を重点とします。

(1) 研修体制を充実させ、指導力、授業力の向上を図る。

- ① OJT研修（「学年会」「校内研修」「OJT研修」の充実を図る。
（定期的に学年会を設定・実施し、質の高い指導ができるようにする）
- ③ 副担任制を実施し、組織力を高める。（低学年／図工、中学年／日本語、高学年／5年生音楽・6年生算数）
（副担任を設け、主幹・主任層を活用し若手の人材育成を図り、指導方法の工夫や学級・学年の様々な問題に組織対応する。）
- ③ 特別支援教育に関する資質向上のための研修会を活用し指導力を高める。
- ④ 経験年数、職層、教育課題に対する研修会、国、東京都、羽村市が実施する研修会等へ積極的に参加し、成果の共有化を図る。

(2) 地域の教育力をコミュニティ・スクール、地域学校協働本部を窓口に小作台小学校の教育活動に取り入れ、教育力を高める。

- ① 地域ボランティアを積極的に授業（教育活動）に取り入れる。

(学校農園ボランティア、図書ボランティア、昔遊びボランティア、学習協力ボランティア・・・地域巡り・安全マップ・家庭科・山歩き、登下校見守りボランティア、はむらっ子協力ボランティア、環境整備ボランティア)

② 大学や専門機関と連携した研修及び授業の実施を実施する。

(3) 「見える」「分かる」教育活動となるよう、公平で適切な学校評価と教育活動の積極的な公開と発信の工夫をする。

① 学校を地域に開き理解を深めていくために、土曜学校公開を実施する。

② 学校評価の計画的な実施と改善への取組をする。

③ コミュニティ・スクール委員による学校評価の充実を図る。

④ 学校だより「小作台」、掲示板、学校ホームページを活用した教育内容の広報を行い、その改善と内容の充実を図る。